

報道関係者各位

令和4年3月29日

10月に福岡で「全国産業安全衛生大会」を開催！ 特別講演に福岡伸一氏(青山学院大学教授)が登壇、 参加者にはオンデマンド配信専用コンテンツを提供

中央労働災害防止協会（略称：中災防、会長 十倉雅和・日本経済団体連合会会長）は、2022（令和4）年10月19日（水）～21日（金）に、福岡で「第81回 全国産業安全衛生大会」（以下、福岡大会）を開催します。福岡での開催は2010（平成22）年以來12年ぶりとなり、昨年引き続き今年も新型コロナウイルス感染症防止に配慮しながらの開催となります。また、参加者にはオンデマンド配信専用コンテンツ提供によるオンラインサービス（大会開催初日から17日間）も行います。なお、「緑十字展」も現地にて例年通り同時開催します。

全国産業安全衛生大会は国内最大の“安全文化”の祭典で、全国の企業の経営者や産業安全・労働衛生担当者、産業保健スタッフ、医療従事者、自治体、大学等の教育研究機関などの労働安全衛生関係者が一堂に会し、さまざまな業界・業種の労働災害防止対策や最新の労働安全衛生施策・活動などについての情報を収集・共有し、学び合い、交流する場です。緑十字展は、安全衛生保護具や働く人の健康づくりのための製品・サービスを紹介する展示会です（別紙に大会・緑十字展 沿革）。

福岡大会は、現地開催とオンラインサービスを効果的に活用することで、新たな参加者層やニーズの開拓も期待できるとみています。テーマを「太宰府の地 皆で学んで高めよう 安全・健康の知恵」とし、DXやAI・IoT、VR技術などを活用した安全衛生活動や企業における健康経営の取り組みの紹介など、業種・規模の枠を超えた共通の課題・テーマにも焦点を当て、安全衛生施策や健康づくり等の情報を共有する場としたい考えです。

福岡大会初日の総合集会はマリンメッセ福岡B館（福岡県福岡市）、2、3日目の分科会はマリンメッセ福岡A館と福岡国際会議場（福岡県福岡市）で行う予定です。分科会は過去最大の26テーマを予定しています（末尾の一覧参照）。

初日の総合集会の特別講演では、第29回サントリー学芸賞を受賞し、87万部を超えるベストセラーとなった「生物と無生物のあいだ」（講談社現代新書）の著者である福岡伸一氏（青山学院大学教授）を迎え、「生命を捉えなおす～動的平衡の視点から～」と題して、“生命とは何か”を動的平衡論から問い直して話していただく予定としています。また、分科会の講演者として、久保千春氏（中村学園大学学長／前・九州大学総長）、平岡和徳氏（宇城市教育長／熊本県立大津高校サッカー部総監督）、和田耕治氏（国際医療福祉大学医学部公衆衛生学教授）が決まりました。今後、随時、新たな講演者等を追加していきます。

（裏面に続く）

オンラインサービスは、現地で実施しているプログラムのライブ配信は行わず、大会開催時3日間とその後2週間（14日）の計17日間にわたり、オンデマンド配信専用のコンテンツを30～80本提供する予定です。現地開催とは違うプログラムを自由に聴講できますので、現地参加と併用することでより幅広い情報収集が可能です。中災防では、現地とオンラインサービスのそれぞれの利点が活かせるよう、会期中のプログラムを構成していきます。なお、本大会の参加申し込みは6月から受け付ける予定です。

本大会と同時開催で、安全衛生分野で国内最大の保護具・機器の展示会「緑十字展 2022 in 福岡ー働く人の安心づくりフェア」をマリンメッセ福岡A館で行います。緑十字展は入場無料で、本年は現地のみの開催を予定しています。

【分科会における発表予定のテーマ】

- ・安全管理・職場安全活動（危険の見える化、安全衛生巡視、リスク低減、不安全行動、非定常作業、災害事例の活用等）
- ・労働安全衛生リスクアセスメント・マネジメントシステム（OSHMS、JISQ45100、ISO45001）の導入・定着
- ・企業におけるリスクアセスメント
- ・事業場等における安全衛生教育、安全（危険）体感教育
- ・職長教育、雇入れ時教育等
- ・職場における安全衛生文化の継承活動
- ・事業場等におけるゼロ災害全員参加運動（ゼロ災運動）の活動
- ・危険予知活動（KYT）や指差し呼称の活動
- ・企業における健康経営の取り組み
- ・職場の健康づくり活動
- ・職場のメンタルヘルス対策
- ・ストレスチェック制度の活用
- ・事業場等における新型コロナウイルス感染症対策
- ・熱中症予防対策
- ・職場の作業環境管理、作業管理及び健康管理に関する改善
- ・DXやAI・IoT、VR技術などを活用した安全衛生活動
- ・産業用ロボットの導入・活用
- ・ドライブレコーダーを活用した交通事故防止対策
- ・運行前、運行中、運行後および通勤時の安全運転
- ・化学物質に関するリスクアセスメント、健康障害防止
- ・アーク溶接ヒューム
- ・機械・設備の安全対策
- ・安全で安心な店舗・施設づくり等に対する安全衛生対策
- ・腰痛予防対策
- ・職場の防災、自然災害対策
- ・国内事業場で働く外国人スタッフや海外関連事業場における現地スタッフへの安全衛生活動、教育

※全国産業安全衛生大会 <https://www.jisha.or.jp/taikai/index.html>

※この資料は、福岡経済記者クラブ、厚生労働記者会、労政記者クラブ、厚生日比谷クラブ、鉄鋼研究会、自動車産業記者会に配布しています。

【担当】 中央労働災害防止協会
教育ゼロ災推進部 部長 縄田 英樹

【照会先】 総務部 広報課長 道野 真貴子
(電話) 03-3452-6542
(e-mail) koho@jisha.or.jp

全国産業安全衛生大会の 誕生とあゆみ

◆ 昭和7年、第1回『全国産業安全大会』 東京で開催

第1回の全国産業安全大会が、(財)産業福利協会の主催により、1932(昭和7)年11月21日から3日間、東京・神田の学士会館で開催され、300人を超える人たちであふれた。

安全運動の先駆者・蒲生俊文の司会のもと、“同志が集う”会場には熱気があふれ、互いに手を取り合って安全運動を推進していこうとする連帯ムードが高まった。

大会の目的の一つである「連帯」は十分に果たされたが、それにも増して注目されるのは、その後ひたむきに継続されることとなる安全対策への「科学の導入」といえるものであった。

それは、「人間とは何か」にメスを入れ、人間の持つ弱点をカバーする方策に取組もうとする科学的姿勢が、企業の中に生まれつつあることを示したものであった。



盛況な第1回全国産業安全大会(昭和7年11月東京・学士会館)

◆ 昭和29年、第1回『全国労働衛生大会』 東京で開催

1954(昭和29)年10月14、15日の2日間、東京の読売ホールにおいて、全国から1,300人の主に労働衛生管理に携わる関係者が集い、第1回の全国労働衛生大会が開催された。

北は富士製鉄(株)室蘭製鉄所から南は旭化成(株)延岡工場まで、いずれも衛生管理の進んだ事業場からの発表であった。結核、鉛中毒、けい肺などの予防に関する報告が目立った。

◆ 昭和44年に『安全大会』と『労働衛生大会』が一本化されて『全国産業安全衛生大会』に

1967(昭和42)年の東京大会は、労働基準法施行20周年記念大会として初めて安全、衛生両大会の合同開催となり、参加者は13,000人を数えた。

翌々年の1969年(昭和44年)には、現在の「全国産業安全衛生大会」の、原型が生まれ、内容を拡充するとともに、「緑十字展」を盛大に開催することとなった。



全国産業安全衛生大会・総合集会

2020（令和2）年、第79回大会は札幌で開催予定だったが、コロナ禍で第二次世界大戦に伴う中止以来の現地開催中止を余儀なくされた。前回（2021（令和3）年）の東京での開催では新型コロナウイルス感染症の防止に配慮し、現地開催とオンライン配信を並行して行った。今回、福岡での開催は2010（平成22）年開催以来12年ぶりとなり、現地での開催に加え、参加者にはオンデマンド配信専用コンテンツ提供によるオンラインサービスも行う予定となっている。

「緑十字展」も福岡で併催

◆ 緑十字展とは

安全衛生保護具、機械の本質安全化にかかる機器、職場環境・作業方法の改善機器、健康増進機器等の展示や装着体験セミナー等を通じて、職場の安全衛生を普及・促進し、労働災害の防止、働く人の心身両面にわたって健康で快適な職場環境づくりに関する安全と健康の最新情報と技術をご紹介しますのが国最大の展示会である。



緑十字展のようす

◆ 第1回緑十字展は昭和43年、安全会館（東京都港区）で

1968（昭和43）年9月30日から10月7日にかけて、東京都港区の安全会館および同会館前広場において、全国労働衛生週間にあわせて開催された。

翌1969（昭和44）年に名古屋市で開催された全国産業安全衛生大会から、毎年同時開催するようになり、現在に至っている。



墜落衝撃実験



安全衛生保護具体験道場

参考資料：「安全衛生運動史・安全専一から100年」（中災防発行）
「日本労働災害推進会のあゆみ」（日本労働災害推進会発行）